

令和元年度 第1回 石狩市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和元年 10 月 29 日（火） 15：00 ～ 16：30

2. 場 所 石狩市役所 3 階 庁議室

3. 出席者（構成員） 6 名（全員）

総合教育会議構成メンバー

役 職	氏 名
石狩市長	加藤 龍幸
教育委員（教育長職務代理者）	門馬 富士子
教育委員	松尾 拓也
教育委員	山本 由美子
教育委員	穴水 正
教育長	佐々木 隆哉

4. 出席者（構成員以外）

部 局	役職	氏 名
	副市長	鎌田 英暢
生涯学習部	部長	安崎 克仁
	次長（教育指導担当）	佐藤 辰彦
	次長（社会教育担当）	東 信也
	参事（指導担当）	山田 潮
生涯学習部総務企画課	課長	松永 実
	主査	扇 武男
	主査	古屋 昇一
生涯学習部学校教育課	課長	佐々木 宏嘉
保健福祉部	部長	大塚 隆宣
	次長	伊藤 学志
子ども家庭課	課長	櫛引 勝己

5. 事務局

部 局	役職	氏 名
企画経済部	部長	小鷹 雅晴
企画経済部政策担当	主査	那須野 英人
	主任	吉岡 亮
	主事	勝木 麗華

6. 傍聴者 2 名（会議公開）

7. 協議事項

- ① 開会
- ② 事務局説明（教育大綱の策定について）
- ③ その他
- ④ 閉会

8. 協議内容の記録（経過、質疑・意見）

（開 会）

- 【小 鷹 部 長】
- ・開会の宣言
 - ・配布資料の確認
 - ① 会議次第
 - ② 石狩市教育施策に関する新しい大綱の策定方針（資料1）
 - ③ 国の教育振興計画、北海道教育推進計画、石狩市教育プラン及び教育大綱の比較について（資料2）
 - ④ 石狩市教育大綱（案）（資料3）
 - ⑤ 令和元年度 総合教育会議スケジュール（参考）
 - ・本会議は、石狩市総合教育会議会則第4条に基づき、公開とする。
 - ・議事録は、同会則第4条第2項に基づき、公開とする。要点筆記で、発言者は市長、教育委員会、事務局という区分けで記載し、発言者を明示しない。（後に松尾委員の意見により、議事録には発言者の名前を記載することに決定した。）
 - ・決裁後にホームページに記載する。
 - ・議事録署名は、松尾委員に依頼する。
 - ・自己紹介

○「石狩市教育大綱（案）（以下、大綱（案））」についての説明

- 【那須野主査】 ・石狩市教育施策に関する新しい大綱の策定方針（資料1）及び国の教育振興計画、北海道教育推進計画、石狩市教育プラン及び教育大綱の比較について（資料2）

大綱は、国の教育振興基本計画の基本的な方針を参酌して定めることとされている。

首長が教育委員会と協議・調整した事項を大綱に記載した場合、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第8項」により、首長及び教育委員会の双方に尊重義務が発生する。

他方で、尊重義務とは、その方向に向け努力することであり、会議で調整した方針に基づき事務執行した結果、大綱に定めた目標を達成できなかった場合は、尊重義務違反には該当しない。

地方公共団体の長が、総合教育会議で当該プランを協議・調整し、大綱に代えると判断した場合は大綱を策定する必要はない。

総合教育プランの基本理念は、首長が目指す本市の方向性と合致しているため、新たな大綱（案）は総合教育プランをベースに策定した。

・石狩市教育大綱（案）（資料３）について

市の教育及び子ども施策に対する積極的な姿勢を「教育の方針」として位置付けた。

取組の柱を３つ設定している。

１つめの柱は「次代を築く子どもたちが、どのような環境のもとにおいても、安心して学習することができる環境を整えます」とした。教育振興計画の方針４、総合教育プランの方針２が関連する。

２つめの柱は「学びや成長の機会を充実させ、子どもたちの可能性を広げます」とした。教育振興計画の方針３、総合教育プランの方針３、５が関連する。

３つ目の柱は「新しい時代を生きる力と豊かな人間性をこの石狩の地で育み、独創性と高い志をもった「いしかりっ子」を育てます。」とした。教育振興計画の方針１、２、５、総合教育プランの方針１、４、６が関連する。

裏面に「石狩市教育大綱」策定にあたっての考え方を記載した。

・大綱の対象期間について

国では市長任期に合わせ４年から５年程度を想定している。

しかし、教育は一貫した方針のもとで安定的に行われるべきものであり、社会情勢や施策の展開状況などに応じた弾力的な対応も必要である。

今回の大綱（案）は特段の期間を定めず、必要に応じて改定したい。

○「石狩市教育大綱（案）」（資料３）方針について

【穴水委員】 １行目について「子どもが子どもらしく」という時代だろうか。子どもも時代に合わせて進化することが望まれるのではないか。教育振興基本計画の方針１から「夢」を使って、「子どもが自らの夢を実現する社会の構築はもとより」としてはどうか。

【市長】 どんな時代が来ようとも、子どもは子どもらしくというのが自分の根底にある。

【門馬委員】 子どもがＩＣＴ社会にただ飲み込まれるのではなく、子どもらしく人らしく育つことが大事ではないか。

【松尾委員】 「自分は自分らしく」、「子どもは子ども」で認めることがスタートラインであり、その上で夢を持てるように働きかけることが大事だと思う。

【山本委員】 その後の「子どもの未来づくり」というフレーズで、夢や志、可能性など全て含めているかと思う。

【副市長】 「子どもが夢と志を持ち、子どもらしく育まれる社会の実現はもとより」という表現にしてはどうか。

プログラミングなど高レベルの教育を目指さなければならないというのは分かるが、子どもは子どもであることは間違いないと思う。

【松尾委員】 子どもが持っている可能性をできるだけ引き出していく表現があると「夢」などにリンクして良いと思う。

【教育長】 上から目線で、大人から見た子どもらしさという感じはする。「健やか」などとは違う意味を込めているのではないか。どちらかというところ福祉の観点だと感じた。

【小鷹部長】 後は事務局と市長が話し合った中で検討することでも良いか。

【松尾委員】 市長の思いが前に出た方が良いと思うので、市長の思いで議論を参酌して頂きたい。

【市長】 方針については今回の議論をまとめて、改めて内部で検討した上で事前にお示しして再度議論したい。

○「石狩市教育大綱（案）」（資料３）取組の柱１について

【門馬委員】 「どのような環境のもと」とはどういう意味か。

【小鷹部長】 「貧困な家庭であっても」というニュアンスである。

【門馬委員】 別の表現の方が分かりやすいと思う。

【松尾委員】 「次代を築く全ての子どもたちが安心して学習できる環境を整えます」ではどうか。

【山本委員】 「どのような環境のもと」とは、貧困も、災害も踏まえた表現かと思う。

【教育長】 インクルーシブ教育や、特別支援も含まれるのではないかと思った。「全ての子どもたち」とした方が、こういう意味が膨らんでいくと思う。

【小鷹部長】 「次代を築く全ての子どもたちが安心して学習することができる環境を整えます」で良いか。市長はいかがか。

【市長】 良いのではないか。

【小鷹部長】 では１はそうにする。

○「石狩市教育大綱（案）」（資料３）取組の柱２について

- 【穴水委員】 取組の柱2の先頭に生涯学習の意味合いで「生涯にわたって」という言葉を入れたらどうか。
- 【松尾委員】 子どもたちの可能性とつながりがなくなり、全ての人の可能性となってしまう。教育プランで全体を網羅し、教育大綱は市長の思いで作るという在り方もできる。
- 【教育長】 教育プランの対象は全市民であるが、前回の教育大綱では特に子どもだけをターゲットに絞っているという説明があり、次も同じだと思っていた。
- 【東次長】 前回の教育大綱については生涯学習の考え方も入っていたと理解している。実際に市民カレッジの推進支援という部分も入っており、子どもだけという認識はなかった。
- 【市長】 教育大綱としてイメージしているのは子どもである。
- 【副市長】 前は市民カレッジなどいろいろな要素を入れて、メインは子どもであった。
- 【穴水委員】 子どもたちもいずれは大人になるという意味ではつながっていく。教育委員会の守備範囲ということで考えれば、子どもたちに対する教育だけではなく、生涯学習も入る。そういうことが大綱であり、一部入っても良いという意識はあった。
- 【門馬委員】 大綱だけが全てではないので、大綱はここに焦点を当てていくという整理をすることもできると思う。
- 【小鷹部長】 あくまでも市長がイメージしているのは子どもである。前回の教育大綱でも柱や方針は市長の思いで作成し、それ以外は教育プランに委ねている。また、市民カレッジの意味合いとしては、子どもたちも生涯学習の場で、社会見学やふるさと教育という場を利用して、先生方から教えてもらおうという感覚であった。意見のあった部分を修正、確認後、12月に教育委員会で進めている教育プランと併せてパブリックコメントに付したいと考えている。

○「石狩市教育大綱（案）」（資料3）取組の柱3について
（質疑・意見なし）

○「石狩市教育大綱」策定にあたって（資料3）について

- 【松尾委員】 教育プランに委ねていますという表現より、取り進めますという表現の方が良いのでは。教育大綱の期間について、策定方針のポイントでは、市長の思いは発信と謳われており、市長の任期と連動なのか、教育プランと連動なのか、大綱の期間に関して検討していただきたい。

【小 鷹 部 長】 教育大綱自体は市長の任期に合わせることもできる。教育の一貫性を考え、必要に応じて変更するイメージではいるが検討する。意見のあった部分を修正し、11月12日の教育委員会議で示す。

○その他

【穴 水 委 員】 学校トイレの洋式化について要望する。現在、ほとんどの家庭で洋便器、特に、温水洗浄便器が使用されており、子どもたちが和便器を使用する機会は多くない。学校のトイレは、「汚い・臭い・暗い」の3Kなどと言われており、排泄行為自体が恥ずかしいと無理に我慢する子どもや、からかわれるので学校ではトイレに行きたくないと考える子どももあり、健康を損なう恐れが指摘されている。先日の子ども議会では、市教委の担当者から、予算等の関わりから全ての学校で早急に改修工事を行うことは難しいという回答があったが、何とか1日でも早く、洋式便器への切り替えをお願いしたい。教育に関しては、費用対効果がなかなか表に現れにくいという面もあるが、優位な人材の育成には、先行投資が必要だと思っている。また、石狩市への移住を考えている子育て世帯にとって学校レベルや教育環境は重大な関心事と考えられるため、石狩市の移住促進という観点からも、ぜひ検討をお願いしたい。

【市 長】 文科省の交付金の3カ年計画は、来年が最終年度である。我々としては、教育委員会と連携を図りながら、R2年度に2校分の予算を措置する方向で今現在進めている。問題は財源の交付金であり、国の方には財源措置を延長するよう市長会を通じて要望はしている。設置者及び予算提案者側としては最大限の努力はする。

(閉 会)

令和元年12月17日

署名委員

松尾 拓也